

弟とお菓子を奪い合っていた！その時、いったい何が起こった？

11月21日(月)、上江洲亜里沙先生が授業を公開しました(1年7組)。本時は、生徒が自身の体験談を故事成語と結びつけ、その体験文を基に、**4コマ漫画を描くこと**が目的です。

亜里沙先生の授業で大変参考になったのは、4コマ漫画を作成する際に、『**絵の善し悪しではなく、起承転結と結びつけて構成することが大切だよ**』と、評価のポイントを生徒に示すことで、生徒は自身の体験文と故事成語を照らし合わせながら推敲し、その体験文を起承転結に構成する姿がありました。



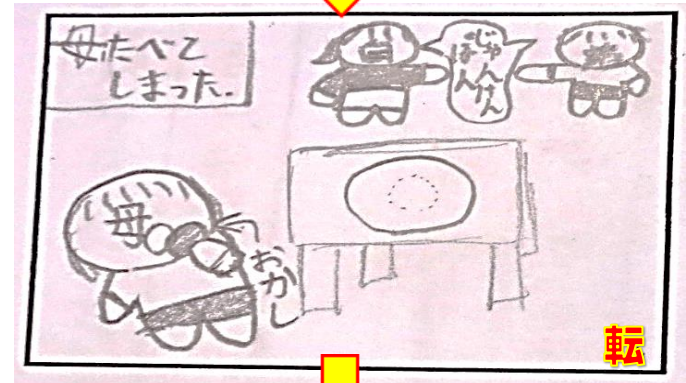
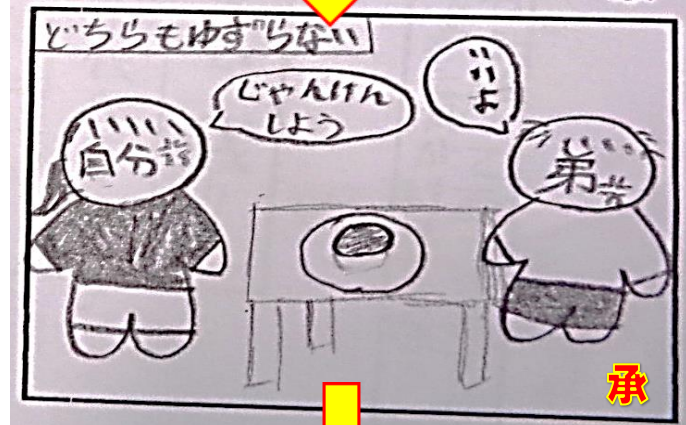
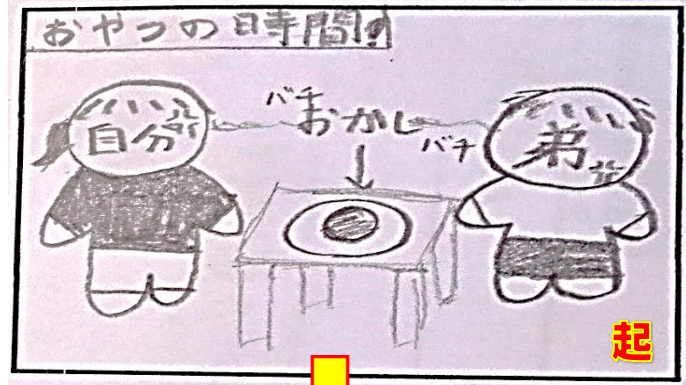
授業後半では、作成した4コマ漫画をグループで読み合い、感想や意見を書くこと(相互評価)を予定していましたが、時間が足りませんでした(タイムマネジメント)。

「4コマ漫画を描く」という、本時のねらいは達成されたと思いますので、次時は、**生徒が故事成語を「生きた言葉」として獲得する姿を期待し**、次時の授業を楽しみにしています。

亜里沙先生、ありがとうございました。

表1 Nさんの体験文と4コマ漫画(右図)

【Nさんの体験文】	★原文のまま記載
漁夫の利：両者が争って互いに譲らないうちに、第三者が利益を独占してしまうこと	
起 おやつ時間に、弟と自分が残りの一つのお菓子をどちらが食べるか争っていた。	
承 どちらも譲らないので、じゃんけんで決めることにした。	
転 すると、お母さんがやってきて、そのお菓子を食べてしまった。	
結 じゃんけんで買った弟が食べようとしたが、すでに母に食べられていた。これぞまさに、漁夫の利だ。	



中学校国語科における故事成語の指導について ★参考：京都教育大学教育実践研究紀要 第18号より抜粋

小学校で何を学んだのかを確認し、教科書で関心や意欲を高めた後に、発展学習として故事成語に触れる時間を作ることが必要であり、生徒自身が学んだことを使用できる、つまり**生徒自身が普段の生活の中で使える生きた言葉となるように指導する**という教師側の指導力が求められているといえるだろう。